松本市議会議員

吉村幸代 の活動レポート

よしむらさちよ

第18号（令和2年度下半期号）

2021年4月発行

発行　吉村幸代後援会
〒399-0025　長野県松本市寿台9丁目4−1
Tel & Fax　0263（58）0201
E-mail　sachiyo941@gmail.com
URL　http://yoshimura - sachiyo.jp/

経済地域委員長2年の成果

市議会基本条例施行から12年

松本市議会初！政策条例改正

悲願達成「スマート農林業の推進」

定例議会の閉会日、経済地域委員長を務める私は委員会報告のために登壇するのが常ですが、令和3年2月定例会では、「松本市農林業振興条例の改正議案を提出する」という大役も担いました。委員会の調査研究が結実し、「スマート農林業の推進」を条例に盛り込む運びとなったのです。

また、市民の方々から陳情を受け、委員会で取りまとめた「中小企業の支援と労働者の賃金改善を求める意見書」も提出して説明。委員長2年目の終盤は出番が多く、緊張感・充実感・達成感に満ちた三冠王ならぬ三感王でした。

さて、スマート農林業とは、情報通信技術（ICT）、ロボット技術、人口知能（AI）等の先端技術を活用する農林業をいいます。「スマート農林業の推進」を条例に謳うに至った経過の詳細については、活動レポート第19号（特別号）をご覧いただきたいと思いますが、関係団体等と意見交換を重ねて、パブリックコメントも実施。

全議員による2回の政策討論会では、寿命が縮むような思いも味わいました。しかしながら、この悲願達成は議員冥利に尽きます。「天の時・地の利・人の和」を実感する大きな出来事となりました。

3月末には、具体的な推進施策をまとめた政策提言書を市長に提出しました。農林業の明るい未来への願いを込めた力作。お読みになりたい方は、吉村までご一報ください。インターネットでご覧いただくことも可能です。

▲　令和2年10月　母校・松本蟻ヶ崎高校書道部を訪問

書道ガールズの全国大会優勝カップ、重みを実感！

登壇しました 2月定例議会

1．続・日本語の乱れ
(1) 教育的見地からの現状認識と対応
(2) 片仮名語（外来語）の増殖・氾濫
(3) 日本語の乱れが招く政治的無関心

2．地域づくり拠点の三位一体化と地区公民館
(1) 地域づくり拠点としての地区公民館
(2) 社会教育施設としての地区公民館
(3) 市長の政治姿勢

地区公民館や福祉ひろばを地域づくりセンターへ一体化し、センター長の権限を強化するという組織大改編が予定されています。地区公民館の 70 年余の歴史をひも解きながら、その独自性・専門性と公民館長の重要性を強く訴えました。

市民タイムス 令和3年3月10日（水）

片仮名語で市民置き去り？

アーキテクト、ファジー…

松本市議 多用の市に苦言

臥雲義尚市長は「一人も取り残さない」を掲げているが、片仮名語の多用が市民を切り捨てている―。

9日の松本市議会2月定例会の一般質問で、吉村幸代氏（開明）が臥雲市長をこうただす場面があった。新市政になって1年、行政に「片仮名語の波が押し寄せている」と主張した吉村氏に対し、臥雲市長は「分かりやすく伝えるという根本を胸に刻みたい」と自戒を込めた。

吉村氏は「デジタルファースト」「アーキテクト」「ファジーな状況」「松本のポテンシャル」など、この1年に理事者側が使用した横文字を例示し「焦点をぼかされた」「どこの国かと思った」などと皮肉った。片仮名語の多用は意味を知らない人を切り捨て、受容できる行政サービスに格差を生じさせると詰め寄った。

臥雲市長は明治以来、日本は外国の単語を柔軟に取り入れる中で文化や教育、産業を発展させてきたとし、近年は「グローバル化や技術革新が急速に進み、固有の日本語ではなかなか言い表せない場合が多々ある」と弁解した。一方、記者会見で「ファジー」と発言した点について「曖昧、不明確」などと言い換えるべきだったとし「より適切な言葉遣いができるよう留意したい」と語った。（有賀文香）

それはどうでしょう？片仮名語が増殖した分だけ日本語が消えていき、理解できない人の切り捨ても招きます。このあたりで立ち止まって皆で考えてみようではありませんか ！?

引き続き、従来どおり適切に片仮名語・外来語を使用してまいります。

熱弁をふるって答弁する宮之本副市長

議場が沸いた！質問「続・日本語の乱れ」

信濃毎日新聞 令和3年3月10日（水）

松本市政 カタカナ多過ぎ？

市議「わからない人取り残される」

松本市政はカタカナ語の使用が多い？　9日の市議会一般質問で、市側答弁などにカタカナ語が多いとして「意味がわからない人が取り残される」と市議から苦言が出た。

吉村幸代市議が、昨年12月市議会での市側の答弁などに言及。行政のデジタル化について、中野嘉勝政策部長が一つの窓口で複数の手続きができる「コネクテッド・ワンストップ」、一度の手続きで済ませる「ワンスオンリー」と発言したことなどに触れ、「新市政になってカタカナ語が増えた」とした。

カタカナ語を使う利点を問われ、海外経験が豊富で英語も堪能な宮之本伸副市長は、最近話題の渋沢栄一の著書にも「結構なカタカナ語が使われている」と指摘。「GoToトラベル」を例に英文法的に「噴飯物」の誤用例が多い一方、アイデンティティーなど日本語にない概念ではカタカナ語の方が正確に伝わることもある―などと縦横無尽に語り、市議は思わず苦笑。

最後は臥雲義尚市長が、カタカナ語は目的や場面に応じて適切に使うのが大切との認識を示し、「これまで以上に分かりやすく伝えていく」と質疑を収めた。

副市長「より正確に伝わることも」

「コネクテッド・ワンストップ」「ワンスオンリー」

吉村コラム　ちゃぶ台も勉強机

幸せだね、ママ

孫が３人いる。男の子ばかりだが、贅沢を言ってはいけない。元気な孫を授かったことに、感謝するべきだ。そのうちの５歳児が、「幸せだね、ママ」とよく母親に話しかけるらしい。「何が幸せ？」と尋ねると、「おうちが暖かくて、美味しいご飯が食べられて、皆がいて幸せ」と答えるという。

当たり前だった幸せが、長引くコロナ禍で揺らいでいる。客足が途絶え、売り上げが落ち、収入が減り、あげく職を失ったり、店を閉めたりした人たちがいる。

令和３年２月定例議会は、そうした厳冬に開会し、閉会した日には春が訪れていた。長丁場の上に、盛りだくさんの重要案件。56年ぶりに予算特別委員会まで立ち上げられ、分科会審査を経て、６件もの総括質疑が行われるという前代未聞の事態が起きた。

私が会長を務めた経済地域分科会からは、地域づくりセンターの予算増額が住民自治の強化にどうつながるのかという質疑と、松枯れ対策事業費が森林再生会議の提言前に予算化された理由を問う質疑が行われた結果、松枯れ対策の樹幹注入費について、「市長の責任のもと合理的な説明ができる予算執行をすること」を要請する付帯決議。建設環境分科会からは、アルプス公園キャンプ場整備事業費の計上経過や算出根拠が不明として４，７１６万円を予備費に組み替える修正動議が提出され、本会議にて全会一致で可決。異例づくしの予算審議となった。

「政治とは金の分配」と、常に考える。議員になったばかりの頃は「億」という単位の事業費を目にするたびに「天文学的な金額だ」と驚いたが、最近は驚かなくなった。慣れたのか、麻痺したのか、一人前の議員になったのか。

自分の財布からの支払いには極めて敏感で緻密、なのに役所や会社の事業費には太っ腹に構えてしまう……一般論として、世にありがちな話ではないか。公共事業の原資は税金。市民感覚との乖離が見えたなら、議員の出番だ。

議会閉会から数日後、臥雲市長と個人的に言葉を交わす機会を得た。初めての予算編成に修正がかけられ、議会との溝が取り沙汰されているにも関わらず、「これからも丁々発止でやっていきましょう」と言った市長の表情の明るさに、私は素直に感じ入っていた。結局、市長も議員も、目指す山頂は同じなのだ。入山口と登り方が違うだけ。「市民の幸せな暮らし」という高みを目指し、ともに最善を尽くし進んで行こうではないか。

「願わくは花の下にて春死なん」と詠んだのは西行法師。43年前の４月25日、私の祖母の命日は桜花満開の下であった。12年前の４月14日、父の命日も花の下。今年の桜は、４月を待たずに開花した。こんなところにも地球温暖化の影響が見え隠れしている。

桜吹雪の中ではしゃぐ孫たちを眺めながら、「いつまでも『幸せだね、ママ』と語りかけてほしい」と願った。地球温暖化もコロナ禍も、様々な場面で私たちの日常に変化を迫っている。「努力しなければいけないことは確か」と、私は薄ぼんやりと覚悟を決めた。

つらぬく主張

「学問の自由」にこだわった日々

令和２年９月定例議会にて、学都まつもとの学校教育について質問する中で、「教育委員会はその独自性を担保するために、自治が高度に認められるべき団体である。首長からの独立性をもっており、例え国や市首長部局が推進することであっても、最終的に『やらない自由』がある」と発言。

令和３年２月定例議会では、社会教育の領域における「自由な学び」を守るため、地区公民館の独立性の担保について強く要望。さらに、市の総務部長が横すべりに教育長に就任する所信表明に際しては、「教育委員会の独立性が保たれるのかと心配する声が、議員のみならず市民の中からも上がっている」と指摘しました。ちなみに教育行政の長である教育長は、これまで校長経験者が務めてきました。

日本国憲法第23条は「学問の自由」を保障していますが、明文で「学問の自由」を規定している国は少ないようです。学問は、世の中を左右する力をもつもの。先人たちの大きな犠牲と努力の上に手に入れた大切な権利だからこそ、私はこだわり続けます。

▲ 9/16(水) 9月定例会 一般質問

▲11/ 3(火)育てた菊花が満開に

11/11 (水) 故郷・安曇野市役所へ
宮澤宗弘市長をお訪ねして歓談 ▶

▲9/19(土) 深志神社ご祈祷

清酒「寿一番星」発売に
あたり、悪疫退散を祈願 ▶

▲11/12 (木) 渋柿の出荷
アルプス市場(寿白瀬淵)へ

吉村写真館 2020年 9月～ 2021年 3月

▲12/ 1(火) 松本城落ち葉清掃
古城会の恒例行事、先輩方と

▲ 1/ 5(火) 公設卸売市場の初市
新年の初仕事は、真っ暗な早朝に
スタート！右端は長靴姿の市長

▲ 3/29(月) 政策提言「スマート農林業の
推進」を臥雲市長（手前中央）に提出
２年越しの努力・悲願が大きく実って

編集後記

所属する消防団第21分団の詰所が落成、真っ黒な外観に驚いた。黒幕、黒星、暗黒……とかく黒は悪いものの例えとされる。今が旬のサヨリは光り輝く姿が美しいが、実は腹の中は黒い薄膜で真っ黒。「サヨリのようね」と言われたら要注意。▼「ブラック労働」と思わず叫びたくなるほど、吉村議員の一年は多忙だった。新市政の混乱により、長時間の会議や打ち合せの繰り返し。市民の方々からの相談も増え奔走。未知なるウィルスに怯えながらも巣ごもりは叶わず、「こういう時こそ忙しくなるのが議員か」と認識を新たにした。▼「やっぱり生で見ると議会は面白いな。黒づくめのお姉さんの質問は今日も痛快だ」。２月定例議会の傍聴者が呟いた。ズーム会議にオンライン飲み会……コロナ禍は新たな世界を育てたが、代替的措置の感は拭えない。ビールじゃないが、やっぱり生。この一年、後援会の集いも、お宅訪問も叶わなかった。もう少しの辛抱。でも、困り事があったら一人で抱え込まずにご相談を。（結城子）